



あいち防災キャラクター  
防災ナマズン

# あいち防災通信

## 号外

●発行●  
愛知県・あいち防災  
協働社会推進協議会

### 愛知県東海・東南海・南海地震等 被害予測調査結果公表

#### 被害予測調査とは

愛知県では平成26年5月に南海トラフ地震の発生時に予想される県内の被害について、独自の調査結果を発表しました。

今回の調査は、戦後最大の甚大な被害をもたらした東日本大震災を教訓として、これまでの地震被害予測調査を最新の知見に基づいて見直し、今後の防災・減災対策の効果的な推進に資することを目的として実施したものです。

最大死者数は、国の被害想定に基づいて愛知県が平成25年の5月に公表しました試算から約6千人増えて約2万9千人（理論上最大想定モデル（2頁参照））となりました。

試算では、国が計算した震度分布や浸水の深さなどのデータを使用しましたが、今回の調査は愛知県が独自に想定したもので、国の想定では考慮していなかった、海岸や河川の堤防沈下の影響を新たに盛り込んだ結果、浸水や津波による死者が増加しました。

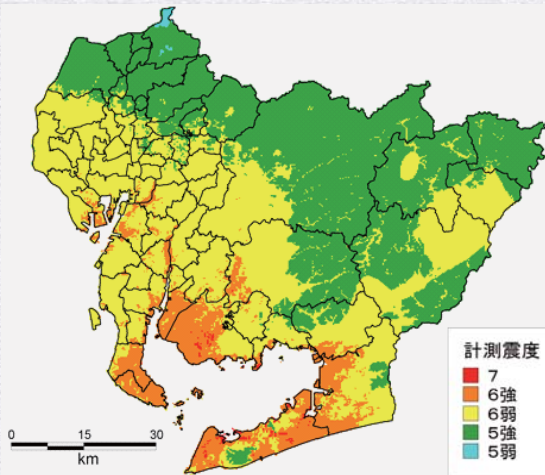
#### 過去地震最大モデルとは

本県の地震・津波対策を検討する上で軸となる想定として位置付けられるもの。

南海トラフでは過去に約100〜200年の間隔で大地震が発生しており、昭和東南海地震、昭和南海地震が起きてから70年近くが経過しているため、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が日に日に高まってきています。

そうした中で、南海トラフで発生する地震のうち、既往最大と言われます「宝永地震」は約300年前に発生しており、その発生間隔はおよそ300〜600年と言われていることから、宝永クラスの地震をベースとして、安政東海、安政南海昭和東南海、昭和南海の揺れや津波高を網羅できるように「過去地震最大モデル」を設定しました。

震度分布（過去地震最大モデル）



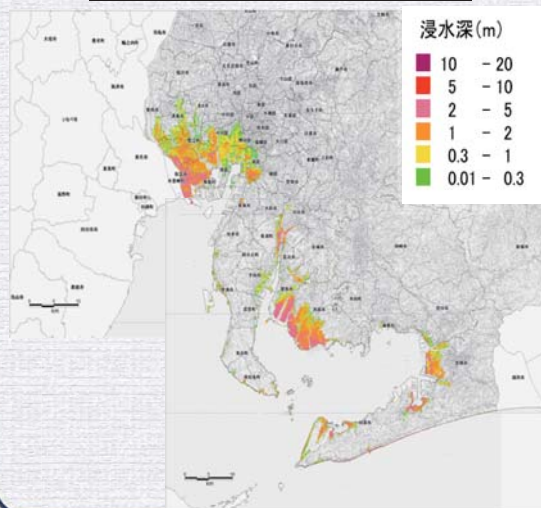
全壊・焼失棟数（過去地震最大モデル）

堤防等の条件(土堰堤)	被災する (50%又は75%沈下)*1
揺れによる全壊	約47,000棟
液状化による全壊	約16,000棟
浸水・津波による全壊	約8,400棟
急傾斜地崩壊等による全壊	約600棟
地震火災による焼失	約23,000棟
合計	約94,000棟

死者数（過去地震最大モデル）

堤防等の条件(土堰堤)	被災する (50%又は75%沈下)*1
建物倒壊等による死者	約2,400人
（うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物）	（約200人）
浸水・津波による死者	約3,900人
（うち自力脱出困難）*2	（約800人）
（うち逃げ遅れ）	（約3,100人）
急傾斜地崩壊等による死者	約50人
地震火災による死者	約90人
死者数合計	約6,400人

浸水想定域（過去地震最大モデル）



\*1: 東海・東南海地震（愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査H15.3）に対し耐震性を有している箇所および液状化危険度が小さい箇所については50%沈下、それ以外は75%沈下（いずれも越流したら破壊）。

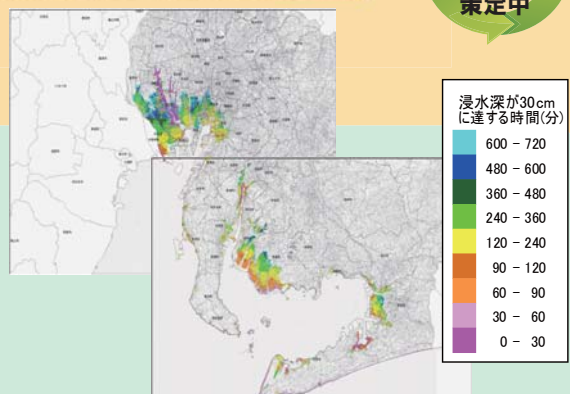
\*2: 建物倒壊や家具転倒等により自力で脱出することが困難となったもの（自力脱出困難者）が、浸水・津波に巻き込まれることによる死者。

#### 浸水深30cmが私たちに与える影響とは・・・

今回の調査では、浸水・津波の想定について、「浸水深30cmに達する時間」が示されています。ここに表されている30cmという数値にはどのような意味があるのでしょうか。

浸水深が30cmになると、歩行困難、車のエンジン停止などの支障が発生し、流速が速い場合には流される危険もあります。今回の調査では、スマトラ島沖地震のバンダ・アチエの津波による被害などを踏まえて、浸水深30cm以上から死者が発生し始める設定としたことから、浸水深30cmに達する時間を示しています。

浸水・津波に巻き込まれないようにするため、強い揺れを感じたり、津波警報等が発令された場合には速やかに避難しましょう。



浸水深が30cmに達する時間 「過去地震最大モデル」

あいち地震対策  
アクションプラン  
策定中